

2教学改革計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)	評価指数（2020～2024）							主な取り組み（2024 年度計画）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等
				2020	2021	2022	2023	2024			
②学部等の新設・募集停止・改組・定員管理等	持続的かつ安定的な園児数の確保	園長	入園定員充足率 (%)	0歳	167	167	200	133	156	2023 年度も 4 月時点で定員割れしているが、在園児の兄弟児や親子広場参加者の入園により、2 月に定員となった。6 年目に入り、転居する園児や学区内の子どもの数の減少が目立っており、来年度定員数及び 1 号認定児の定員数の変更を考えたい。	2024 年度も保育の質や保護者支援の向上を図りながら、SNS などを利用して学区内だけでなく、学区外・管外の入園対象児の増加を図った。5 年間で笠間市全体の就学児前人口の減少が著しく進んでいる為、今後更に園児確保が難しく、定員割れが続く場合は、定員変更を視野に入れる。
				1歳	158	89	89	95	63		
				2歳	150	85	85	80	80		
				3歳	97	116	124	112	96		
				満3歳							
				4歳	70	112	100	100	104		
				5歳	70	84	124	104	100		
				合 計	100	103	113	102	95		
	3 歳児クラスの適切な規模の保育	園長	※各年度末			※定員変更				2024 年度はスタートが 19 名と少数だが、2 クラス制を引き続き採用する。保育士配置は、アレルギー児や配慮を要する園児がいるため、両クラスに加配保育教諭を配置し、十分な支援を行っていく。また満 3 歳児の受け入れを引き続き行う。	3 歳児クラスを園児 7：3 に分け、担任 2 名：1 名の 2 クラス制にしたことで、途中入園児や年度途中での満 3 歳認定変更や配慮が必要な園児に対しても対応可能となった。
	乳幼児クラスへの職員の配置	園長 主幹保育教諭								他園の定員変更があり乳幼児の入園枠が増え、昨年より確保が困難になった。しかし、兄弟児の途中入園希望者が 10 名を超えており、乳幼児クラスの枠を保つために、柔軟な職員配置を行う。	新規入園児他、兄弟児の途中入園児に対しても、満 3 歳クラスへ認定変更を行うことで、未満児クラスの枠を通年確保することができた。今後も非常勤職員やフリーの職員を活用し柔軟な職員配置を行なっていく。
	管外・学区外からの園児確保	園長	管外入園	3 名	3 名	5 名	0 名	1 名	引き続き学区内への入園希望の保護者に加え、近隣の市（石岡・桜川等）にも、働きかけていく。昨年はコンテストや新聞・市の SNS 等を活用し、いなだこども園の存在をアピールできた。笠間市今年度は他市向けに、わかりやすいチラシを作成する。	引き続き学区内への入園希望の保護者に加え、近隣の市（石岡・桜川等）にも、働きかけていく。昨年はコンテストや新聞・市の SNS 等を活用し、いなだこども園の存在をアピールできた。笠間市今年度は他市向けに、わかりやすいチラシを作成する。	2024 年の文部科学大臣賞受賞から、1 月に笠間市より一般表彰を受けたことにより未就園児を持つ保護者に対して本園の理念や特色が浸透した。また本園の SNS 他新聞・市の広報媒体を通して市内外にアピールできた。
			学区外入園	21 名	8 名	9 名	10 名	10 名			
	他園との差別化 (体調不良児保育の開設)	園長	体調不良児保育利用数/月	5 8 件	4 3 件	4 1 件	4 5 件	7 0 件	他園でも看護師常駐の園が増えてきた。昨年度は園歯科医による講話を家庭教育学級で行ったが、今年度も他医療機関と連携し、体調不良児保育だけでなく、講話やお便りなどで、保護者に向けて看護師が常駐している意義を高めていく。	他園でも看護師常駐の園が増えてきた。昨年度は園歯科医による講話を家庭教育学級で行ったが、今年度も他医療機関と連携し、体調不良児保育だけでなく、講話やお便りなどで、保護者に向けて看護師が常駐している意義を高めていく。	体調不良児保育では、体調を崩してしまった園児でも、常駐している看護師によって安心して保護者の迎えを待つ事ができている。共働きが多い為、中々迎えに来られない、休みがとれない家庭から高い評価いただいた。今後は病後児保育も視野に入れていきたい。
			こ小中引渡訓練	未実施	7 月	7 月	7 月	6 月	稲田小中学校と隣接している利点を活かし、積極的に交流して園児と触れ合う機会を作り、就学した後の学校生活をイメージさせる。中学校生徒会より新たな交流会（ハロウィンなど）の提案もあり、地域コミュニティの一員として地域と関わり、多くの人々に見守られ、成長していける環境づくりをしていく。	稲田小中学校と隣接している利点を活かし、積極的に交流して園児と触れ合う機会を作り、就学した後の学校生活をイメージさせる。中学校生徒会より新たな交流会（ハロウィンなど）の提案もあり、地域コミュニティの一員として地域と関わり、多くの人々に見守られ、成長していける環境づくりをしていく。	こ小中連絡協議会では、円滑な接続を行う為、各部門で協議が行われた。小学校との連携は、協議会での情報交換から昨年度とは違った形での交流会や保育参観、小学校参観ができた。2024 度は小学校の都合により年 2 回の開催となったが、今後も年 4 回の協議会を継続する予定。
			こ小中挨拶運動	11 月	6 月・11 月	6 月・11 月	6 月・11 月	6 月・11 月	6 月・11 月		また中学校との連携として、毎年の職場体験他、2024 年 10 月に年長児が中学校主催の高校書道部のパフォーマンスに招待を受け参加した。地域交流の一環として親交を深めていく。
			一年生交流会	11 月	7 月・11 月	7 月・11 月	6 月・11 月	6 月・2 月			
中学生職場体験・交流			未実施	12 月	8 月・12 月	12 月	10 月・12 月				
(近隣の小中学校との連携)		こ小中職連携協議会				12 月	年 2 回				

2 教学改革計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)		評価指数（2020～2024）					主な取り組み（2024 年度計画）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等
				2020	2021	2022	2023	2024		
③カリキュラム改 革・キャリア支援 等	a)英語教室 ・AET 訪問	園長 主幹保育教諭 指導保育教諭	通常保育授業	8月から 実施	4月から 月2回 実施	4月から 月2回 実施	4月から 月2回 実施	4月から 月2回 実施	AET 訪問も3年目となり、園児も講師や外国語に 対して抵抗なく、ネイティブの発音やアルファベ ットを学んでいる。英語教室は5年目になるの で、講師を変更し新たな取組を行なっていく。	2024 度で英語教室を廃止し、AET 訪問を月 2回行った。外国人講師によるネイティブな 発音や英単語を身近に学ぶ事ができた。毎年 のクリスマス発表会ではその成果を歌や劇で 保護者に向けて発表できている。
	b)体育・サッカー・習 字教室		通常保育授業	7月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	体育教室の講師が今年度も変更となる。講師には 運動会の組立体操の指導もお願いし、体育教室以 外でも専門的な指導方法を反映させていく。習字 教室は課外教室のみだが、園児・小学生の他保護 者も入会しており、地域貢献として今後も継続す る。	体育教室での幼児体育指導が園児・保護者に 定着した。度々新たな講師への変更があった が、園児も抵抗なく参加する事ができてい る。職員が体育講師の専門的な指導方法を学 び、運動会では見応えある組み立て体操を行 う事ができた。また、家庭教育学級では親子 体育教室を行い保護者に周知している。
			体育課外教室	7月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	運動遊びを通して子どもの生きる力を伸ばす体育 教室は、多くの園児・小学生及び保護者に人気が ある。今後も継続する。	体育課外教室では、園児、小学生合わせて 50名ほどの利用者があり人気がある。今後 も継続していく。
			サッカー課外教室	7月に実 施	4月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	指導者の交代が続き、サッカー教室の参加人数が 減少している。体験教室やお知らせなどを園児に 配布し通常保育でのサッカー教室を存続させる。	幾度の指導者交代より、課外サッカー教室の 利用者が減少し入会希望も芳しくない為、親 子サッカー教室を開催した。2025 度は家庭 教育学級内で親子サッカー教室を行うととも にチラシを配布し、保護者に周知していく。
			習字課外教室			3月から 実施	4月から 実施	4月から 実施	就学が間近になり、年長児の入会が増えた。地域 のニーズに沿っており、今後も継続する。	2024 年8月より新たな講師に変更。習字課 外教室では、4・5歳児や小学生の入会が増 えている。今後も継続して行く。
			年4回	未実施	6・7・10・ 12月	5・6・7・ 10月	5・6・7・ 10月	5・6・7・ 10月	地域と協力し、今年度も田んぼでの泥んこ遊びを 実施する。また米農家の方にご指導をいただきな がら、園内にバケツ田んぼを設置し稲作を行う。 地域ボランティアに支えられ、保育教諭だけでは できない指導や、地域との触れ合いの機会を作 り、園外保育等で、地域に根付いた活動を拡充す る。	地域の輪が広がり、例年のどろんこ遊びの実 施の他、2024 年度から米農家及び JA 常陸職 員の指導を受け、種もみからのバケツ稲作を 行うことができた。園周辺の恵まれた環境を 活かした活動が地域に根付き、活動の幅を広 げることができている。
	d)食育		サツマイモ・ジャガ イモ・大豆栽培	通年	通年	通年	通年	通年	食育にICTを取り入れ、園児が自ら調理をする ことで食への関心を高め、SDGs の中で実践でき るものを調べ実践する。2023 年度に行った給食 の残食を使用したコンポストなど、 持続可能な取り組みを考える。エコクラブに入会 し、活動を内外に広めていく。	開園より野菜などの栽培を行ってきた。園児 が自発的に、種から生育した作物を収穫後、 調理し食べきるという一環した食育活動を行 う事で、園児や保護者の食への関心が高まっ た。また ICT 教育としてタブレットで調べ学 習を取り入れ、園児の好奇心や探究心を培っ た。2023 年度に給食の残食を利用したコン ポスト堆肥を作成し、2024 年度に地域ボラ ンティアから提供頂いた米糠や粃殻を合わ せ、3箇所の畑の土壌改良を行った。
			調理体験（よもぎも ち・お楽しみ保育・野外 調理）	7月に実 施	4・7月 に実施	4・7月 に実施	4・7月 11月に 実施	4・7月 11月に 実施		
			親子給食（年3回）	未実施	未実施	実施なし	2月に実施	2月に実施		
	e)小笠原流礼法指導		小笠原流礼法指導	3月に実施	3月に実施	3月に実施	2月に実施	6・2月に 実施	近年、子どもの電子機器の使用による近視、筋力 低下による姿勢の乱れ等が問題視されている。そ れらを予防するために、積極的な外遊びの他、正 しい姿勢、所作を学ぶ。	2025 年2月に、いなだこども園、かさまこ ども園、ともべ保育園3園の年長児が合同 で、交流を兼ねて小流礼法研修に参加し正し い姿勢、所作を学んだ。
			職員研修	3月に実施	3月に実施	3月に実施	2月に実施	年1回実施 (合同研修)		

3 学 生 募 集 対 策 と 学 生 数 ・ 学 納 金 等 計 画	中 期 目 標	担 当 責 任 者 (役 職 名 等)	評 価 指 数 （ 2 0 2 0 ～ 2 0 2 4 ）							主 な 取 り 組 み （ 2 0 2 4 年 度 計 画 ）	2 0 2 4 年 度 及 び 中 期 計 画 期 間 の 主 な 実 績 ・ 評 価 等
				2020	2021	2022	2023	2024			
	満 3 歳 児 の 入 園 確 保	園 長 主 幹 保 育 教 諭	入 園 者 数	0 歳	15/9	15/9	18/9	12/9	14/9	共働きや少子化が進み、地域の中で他児と関われる 場所や機会が減少したことから、本園学区内も早期 入園傾向にあり、3 歳児 1 号認定の入園者が少な い。他学区の満 3 歳児を随時募集するとともに、 2 歳児保護者との面談の際、希望があれば満 3 歳児 への認定変更も薦める。子ども福祉課と連携をと り、入園の打診に対して引き続き柔軟に対応してい く。	少子化が進む一方、共働き世帯の増加により、 1 号認定児の入園が減少した(2019 年 8 名→ 2025 年 3 名)。2024 年度は満 3 歳児の随時入 園を受け付けるとともに、保育料を鑑みて満 3 歳になった世帯に 1 号へ認定変更を促し、5 名 の入園・認定変更があった。 満 3 歳児も保育料無償化の対象になることが認 知されていない為、声掛けの他チラシ等に文言 を載せるなどして認知の向上に努める。
	1 歳			19/12	17/19	17/19	18/19	12/19			
	2 歳			18/12	17/20	17/20	16/20	16/20			
	3 歳			29/30	29/25	31/25	28/25	24/25			
	満 3 歳			(内 6)	(内 5)	(内 4)	(内 2)	(内 5)			
	4 歳			21/30	28/25	25/25	25/25	26/25			
	5 歳			21/30	21/25	31/25	26/25	25/25			
	合計			123/123	127/123	139/123	126/123	117/123			
	※ 入園者数/定員の各年度末実績										
	未 満 児 家 庭 の 途 中 入 園 の 確 保	園 長 ・ 親 子 広 場 担 当 保 育 教 諭 （ 小 松 崎 ）	※年度末時点							園児募集・親子広場に関して 7 月・10 月にチラシを 作成し配布する。パンフレットの新聞折込の他、園 の H P や ブログ の 更 新 、 笠 間 市 S N S や 茨 城 新 聞 な ど の 広 報 媒 体 を 活 用 し 、 学 区 内 外 の 満 3 歳 児 及 び 乳 幼 児 の 入 園 確 保 を 図 っ て い く 。	園児募集や親子広場のチラシを子育て世帯が関 わる公共施設等に設置依頼をした。また園の HP 内のブログで、特色ある教育・保育をアピ ールしていった。また、度々笠間市の市報や SNS に園が取り上げられた事もこども園の存在 を知らせるよい機会となった。2024 年度の保 護者の育児休業明け事由の入園者数は 15 名と 多く、入園時期に柔軟に対応できる体制が必須 となる。今後も職員の配置変更を臨機応変に行 なっていく。
	教 育 ・ 保 育 内 容 の 充 実		園 長 ・ 主 幹 保 育 教 諭	園児募集チラシ 配布	7 月配布	7 月・10 月配布	7 月・10 月配布	7 月・10 月配布	7 月・10 月配布		
				親子広場 「いなっぼ」開設	未実施	2 回/月 実施	2 回/月 実施	2 回/月 実施	2 回/月 実施		
一時預かり利用数 (年間延べ数)		3 回		75 回	7 回	161 回	約 300 回				
茨城女子短期大学 こども学科との交 流		6 月に実施 (観察実習)		7 月に実施 (観察実習)	7 月・2 月 に実施 (観 察・保育実 習)	7 月・9 月 に実施 (観 察・保育実 習)	7 月・9 月 に実施 (観 察・保育実 習)				
障害児支援研修		2 月実施		月 1 回	月 1 回	月 1 回	月 1 回				
			ブ ログ の 更 新	週 2 回	不定期	不定期	不定期	不定期	親子広場「いなっぼ」が周知され、平均 6 名が利用し ている。新たな主幹保育教諭が担当し、内容を一新し た。今年度も行事体験など参加者のニーズを聞き取 り、園内見学や一時預りを案内し、入園確保につなげ ていく。	2024 年度の月 2 回の「いなっぼ」利用は、平 均約 5 名となり、給食体験も利用者から好評で ある。利用児はその後全員入園につながった 為、今後も内容を充実させ継続していく。また 地域子育て支援拠点事業認定を目指す。	
			障 害 児 支 援 研 修	2 月実施	月 1 回	月 1 回	月 1 回	今年度は年長児お楽しみ保育へ参加予定。観察実習 で、園の雰囲気や園児との関わり方、保育教諭の指 導方法などを保育の現場で見て、その後の保育実習 に活かして欲しい。保育実習に関しては、実習生の 希望があればいつでも受け入れる。	2024 年度は日程変更のため、行事参加ではな く通常保育参加となった。実習生は実際の様々 な保育現場を見学し、職員が生き生きと働く姿 を見ることができ、保育教諭が楽しくやりがい ある職業であると交流を通し伝えた。		
			ブ ログ の 更 新	週 2 回	不定期	不定期	不定期	2023 年度は、看護師と対象児担任が子ども病院で 肢体不自由児のリハビリや支援方法等の研修を受け た。今年度も水戸特別支援学校から肢体不自由児へ 巡回相談を受ける。発達障害児同様、肢体不自由 児、医療ケア児に関しても、各支援機関と連携して いく。また、インクルーシブ保育研修を計画し、共 通理解を深めていきたい。			現在、身体障害者手帳や医師の意見書により、 加配が必要な園児が 4 名在籍している。支援 の質の向上のため、水戸特別支援学校や市の育 成支援センターより定期的な巡回指導を受け た。指導法等に関しては職員間で共有し、専門 知を高め、よりよいインクルーシブ教育・保育 活動を行なっていく。
			レーザキッズ配信		各クラス の配信	各クラス の配信	各クラス の配信	各クラス の配信	園内でインターネット配信について、マナーやルー ルなどを定めた。発信する画像や文書をクラス・園 長で確認し情報発信していく。クラスだよりやお知 らせ等はレーザキッズで配信し、ペーパーレス化を 進めるが、アンケート等は紙媒体の方が意見を反映 しやすいこともあり、検討していく。	ブログは、主に園の行事の様子を配信し、在園 児の保護者以外へも発信し続けている。またク ラスだよりとして、月に 1 度、レーザキッズ で配信し、担任目線の身近な子どもたちの姿を 保護者に伝えることができた。全職員が正しい ネット使用ができるよう努めていく。	

4 人事政策と人材育成、人件費の削減計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)		評価指数（2020～2024）					主な取り組み（2024 年度計画）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等
				2020	2021	2022	2023	2024		
	a)人事政策について 適正な職員配置	園長		正職員 1名採用 看護師 1名採用 用務員 1名採用	正職員 1名昇格 常勤職員 1名採用 1名昇格 用務員 1名採用	正職員 1名昇格 常勤職員 2名採用 看護師 1名採用	正職員 2名採用 2名昇格 非常勤 職員3名 採用 障害者雇 用1名採 用	正職員 3名採用 2名昇格 常勤職員 1名採用	短大より3名を正規職員として採用。常勤保育教諭を1名採用した。新人の保育教諭が増えるので、ゆとりあるクラス配置を行い、経験のある保育教諭を指導役としながら、園全体でサポートしていく。働きやすい環境づくりを心がける。	若手職員が増加したことで、指導する中堅職員も自身のスキルの再確認のきっかけになり、全体的なモチベーション向上につながった。また、職員の経験値を加味したクラス配置をしたことで、職務分担や係活動も職員それぞれが自ら進んで行う姿が見えた。
	人材確保								5月に非常勤職員、11月に障害者枠の用務員が、自己都合により退職。今年度は4名保育教諭を採用でき、十分な人材を確保できたので、今いる職員の質の向上を目指す。	正規職員（再任用）1名が2024年8月より3か月間の介護休暇を取得後にパートタイム職員へと任用替えした。また1月末に自己都合により正規職員（ひよこ組）が退職となったが、柔軟な職員配置でクラスの園児や業務内容のサポートにあたった。職員の退職や就労時間減があっても、協力体制がしっかり構築されていた。
	b)人材育成について 定期的な園内研修・会議	園長・主幹保育教諭	園内研修報告会	6月に実施	1月に実施	6月・10月に実施	6月・10月・3月に実施	6月・10月・3月に実施	令和6年度のキャリアアップ研修は、昨年オンライン研修の時間確保が難しかった事を踏まえ、今年度は集合型研修に参加する。また新たに姉妹園となった、ともべ保育所を含めた付属園との研修及び職員交流の機会を作り、各園の特色ある保育活動を学んでいく。	2024年度は、新規採用職員が4名おり、職員配置に余地があった為、キャリアアップ研修をe-ラーニングで受講した。 姉妹園合同で、リトミック・リズム遊び・小笠原流礼法の研修に参加した。研修を通して、各園の強みや職員の指導方法が把握できる為、行事の見学交流等を継続していく。
	園長の個人面談		常勤会議 以上児会議	6月	6月 10・1月に実施	6月 10・1月に実施	6月 10・1月に実施	6月 10・1月に実施		
	園長の個人面談		園長の個人面談	7月・11月・3月実施	7月・11月・3月実施	7月・11月・3月実施	7月・11月・3月実施	7月・11月・3月実施	同園長のまま6年目を迎えたが、主幹・指導保育教諭の交代後も潤滑な園運営ができている。園長と職員の個別面談だけでなく、職員間でもミーティングや会議、交流会を通して、意見交換し、全体で共通理解を深めていきたい。	園長による年3回の職員面談では、業務だけでなく、各職員が抱える家庭状況等を確認でき、細かなフォローが出来たため、働きやすい職場環境を構築した。働き方改革に沿って、どの年代の職員も働きやすい環境を整備していく。
	アレルギー児・障害児・医療ケア児緊急時対応研修	園長・主幹保育教諭・看護師	看護師等による園内研修	12月に実施	12月に実施	12月に実施	12月に実施	12月に実施	安全・安心な園運営のため、災害時の避難訓練だけでなく、特別に配慮が必要な園児（発達遅延・肢体不自由など）のために、それぞれに対応した緊急時対応の園内研修を定期的に行っていく。また、近年の地震災害に備え、事業継続計画（BCP）の作成を行う。	特別な配慮が必要な子については職員会議や研修を通して共通理解した。また、アレルギー児の寛解については、その都度変更事項の承知を徹底し、対象児が安全に過ごせるよう努めた。
			応急手当普及員の資格を持つ職員による園内研修	1月に実施	感染症予防のため未実施	年1回実施	年1回実施	年1回実施	2月に応急手当普及員の資格を持つ職員による園内研修を行った。今年度は笠間消防署の協力を得て、AED外部研修を予定している。また、職員の応急手当て普及員等の資格取得も、推奨していく。	2024年8月に落雷による停電で電気系統が故障した際、笠間市こども福祉課や隣接する小学校、地域ボランティアの協力により通常通り、引き続き保育を行った。園長主導のもと事務室とクラス担当職員間の報連相もスムーズに行われ、体調不良者を出すことなく、緊急時でも安全に保護者へ引渡すことができた。 2024年度笠間市消防署の指導の元、普通救命法講習を行い、職員大半が資格を取得した。



5 経費削減計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)		評価指数 (2020～2024)					主な取り組み (2024 年度計画)	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等
				2020	2021	2022	2023	2024		
	外部発注経費の削減	園長・主幹 保育教諭	職員除草作業	6月・7月・8月 月4回実施	6月・7月・8月 実施	6月・7月・8月 実施	6月・7月・8月 実施	6月・7月・8月 実施	2024 年度も除草作業を職員が行うが、急勾配な斜面は外部委託も視野に入れていく。実施箇所が広大な為、保護者及び地域ボランティアにもご協力いただき、整備していく。小学校側斜面は学務課負担。	急勾配な斜面の除草作業は、地域の方やボランティアの方の協力を得られなかった為、2024 年度も職員で実施した。小学校側斜面は笠間市学務課負担であるが、外部に委託しての除草作業は年に1 度 (10 月) のため、小学校職員と合同で除草作業を2 回実施した。
	施設設備の適切な管理と状況把握		職員空調清掃	12 月実施	4 月・12 月実施	年1 回	年1 回	年1 回	空調設備清掃業者をダスキンに変更した。エアコンの分解清掃は3 エリアにわけ、年1 エリアずつ実施していく。 職員の学期ごとのフィルタ清掃も引き継ぎ実施する。	職員の学期ごとのエアコンフィルタ清掃に加え、3 月には、空調設備業者 (ダスキン) によるエアコン、厨房清掃を実施した。
	備品購入・管理の徹底			壁紙点検 (3 月)	壁紙修繕	防犯モニター・音響システムの修理交換	浄化槽排水ポンプの交換  調理室給水器交換	変圧器 Wi-Fi 非常用放送設備 防犯カメラ修理 キュービクル内避雷器機2 箇所設置	給湯器を2 月に修理した。毎年厨房設備に不具合が出ている。修繕箇所は早急に対処して施設を適切に管理し、大事に使用していきたい。また、事務室の G H P 空調設備も度々エラーが出るため、今年度清掃時点検予定。	2024 年8 月の落雷で、変圧器・Wi-Fi 機器、非常用放送装置・防犯カメラに不具合が生じた為、各所保険にて修繕した。変圧器 Wi-Fi は8 月、放送設備・カメラは2 月に修繕完了。5 年間で落雷が2 回あった為、3 月に笠間市負担でキュービクル内に避雷用ブレーカー2 台を新たに設置した。
				体調不良児用 P C 購入	iPad7 台購入	電子ピアノ3 台の購入		トランポリン購入  行事用炊飯器・ホットプレート購入	物価高騰により、保育教材も以前のような購入が難しくなった。節約に努めているが、質の高い保育・教育活動のため、必要なものは希望を出す。楽器も移譲前から使用しているものが多く、合奏で使用するものは徐々に買い替えたい。	遊具や施設内備品点検を毎月行い、修繕を要する箇所が出た際は早急に対処し、修繕できそうなものに関しては職員が対処していった。食育活動に必要な炊飯器、ホットプレートを購入する事ができた為、今後の食育活動により一層力を入れていく。

6 施設整備計画	中期目標	担当責任者 (役職名等)		評価指数（2020～2024）					主な取り組み（2024 年度計画）	2024 年度及び中期計画期間の主な実績・評価等
				2020	2021	2022	2023	2024		
	a)園庭整備	園長・主幹 保育教諭		クライミングマウンテンの設置	はん登棒・雲梯の設置 砂場の砂追加	運動教具の購入  パティオ計画	パティオ内への田んぼ設置  小学校土手から園庭への雨水流入の対策	小学校側土手整備  パティオ内にバケツ稲設置	パティオ計画にある、移動式の田んぼを設置した。ビオトープ作りや稲作を行い、限られたスペースを有効に利用し、園児の自然を育む心を伸ばす。 <div></div> <p>パティオ内に設置した移動式田んぼ</p>	パティオの限られたスペースを有効活用して移動式田んぼ（バケツ稲）を設置した。園児の食への関心、自然を育み、心を伸ばす体験ができた。また、プールのカバーは、経年劣化のため交換が必要だった。業者より購入を検討したが高額（約 35 万）だった為、U V シートを購入し加工して設置した。
	b)保健室設備の拡充	園長・看護師		AED 購入	ベット付き収納棚の設置	体調不良時保育用品の購入			小さな擦り傷や発疹など感染症以外で体調不良児の保健室利用が増えている。ヒヤリハットを活用し、大きなケガは未然に防ぐ。今年度はアレルギー児の入園もあり、看護師が担当職員と協力し、対応していく。	共働き家庭が多い中で、仕事が休めない保護者が多く見られる。保護者支援の一環として、病後児保育が必要な現状である。開設を目指し保護者のニーズに応えていきたい。
	c)園児用 iPad の活用	園長・指導 保育教諭	iPad 教室		未実施	年4 回	月1 回	月1 回	現在4・5 歳児の野外活動でタブレットを使用している。その他にも職員が研修で学んだアプリを使用し、プログラミング教室を実施し、卒園までに保護者に向けて披露する機会を作る。	植物や生き物などの写真を撮影する際タブレットを使用し調べる習慣や知識を得た。また、就学後の G I G A スクールに向け、タブレットの使用方法や決まりを指導した。